

平成22年10月10日、熊本市動植物園では三連休の中日ともあって多くの家族連れが園内をにぎわしていた。

午後2時、グランパワーヒーロクニは中央ステージに立っていた。来場者はステージでの軽快な動きと音楽に足を止め、彼らのステージに目を向ける。

観客席は満席になり、立ち見も出始めた。子どもたちの応援する声が園内に響き渡る。

ステージが終わると写真撮影会が始まった。多くの家族が列を作り、写真撮影を心待ちにしていた。列は途切れることなく、ステージ終了から約50分間、子どもたちとふれあい、夢と思い出を贈った。

その日の最高気温は、27・3℃。秋にもかかわらずその日は暑かった。2時間近くのショーが終わり、ファイヤーフライファンタジー代表の坂梨裕史さんは、満足した表情で額の汗をぬぐった。

今回は、彼らの夢と汗と涙を通して、「わたしたちが、地域、そして未来に対して何ができるのか」を考えてみる。



1. フェスタ終了後の文化ホールロビー。大勢の人で溢れている 2. 目線は低く、子どもたちの目線と同じに 3. ショーのクライマックスすべてのヒーローが集まった 4. 藤岡さんは熱くヒーロー像を語った 5. 会場前には出店もあり、にぎわった



誕生一。そして...

九州ローカルヒーローフェスタ in くまもととおおづまでの軌跡

スーパーローカルヒーロー

ローカルヒーローまたはご当地ヒーローは、主に地域活性化のため、地域住民や地方自治体などにより作られたキャラクターだ。近年では、全国的にローカルヒーローを作ることが流行しており、日本各地に数多くのヒーローが存在する。

グランパワーヒーロクニを演じるアクショングループ「ファイヤーフライファンタジー」(以下、FFF)、この団体を立ち上げたのは、大津町消防団7分団の団員5人だった。坂梨さんをリーダーとするこのメンバーは、立ち上げの2年前から地元の祭り「里の収穫祭」で仮面ライダーを演じているなど、地域を盛り上げるために活動していた。本人たちは楽しいからやっていたと話すが、その思いは次第に強くなっていった。

そして地元矢護川のために「ローカルヒーロー」を作ろうと考え始める。熊本のスーパーローカルヒーロー「グランパワーヒーロクニ」の誕生はすぐそこまでやってきた。

出会いが誕生を加速させた

FFFのメンバーは、大分県で活躍するローカルヒーロー「パワーシテイオオイトタ」を見に行った。

「ヒーローズ・アトラクション・クリエイティブ」(以下、H・A・C)は、平成12年にヒーロー好きが集まり発足した団体。「元気ある大分」をアピールするため

に「パワーシテイオオイトタ」などのキャラクターショーを中心に活動している。坂梨さんたちは、H・A・Cのコスチュームなどの造形、メンバーが演じるアクションの質の高さに驚愕した。

自分たちもやってみたい、その思いが「グランパワーヒーロクニ」を作り上げる。グラウンドパワー(大地の力)とグラウンドパワー(総合力・みんなの力)を兼ね備えた名前には、坂梨さんたちメンバーの思いが多く込められている。

慣れないコスチュームやマスクの作成も難航した。しかし困ったときにはH・A・Cからアドバイスももらった。彼らの協力があったからこそグランパワーヒーロクニは誕生した。グランパワーヒーロクニの『パワー』は、パワーシテイオオイトタの『パワー』だと坂梨さんは語る。

そして平成17年「里の収穫祭」でグランパワーヒーロクニはついにデビューした。時を重ねるごとに知名度は上がり、公演する地域も増えていった。仲間も自然と増え、ともに結成した「九州ヒーローネット」は、仲間たちの地域との交流や情報と技術を交換することで、ショーの更なる質を上げることが目的の団体だ。その団体で始めたのが「九州ローカルヒーローフェスタ」だった。

同フェスタは、平成19年から続いている九州ヒーローネットの一大イベントだ。多くのローカルヒーローが集合して、子どもたちに夢と勇気を与える。平成19年、21年



炎の戦士
ブレイズレッド

ついに念願のフェスタ開催

7月18日、大津町文化ホールでついにフェスタは開催された。もう2日以上寝ていなかった。午前10時に開演。開会式後、藤岡弘さんの講演が始まった。

藤岡さんは、「実体験から感じたヒーロー像」をテーマに講演を行った。数々のボラティア活動や仮面ライダーを演じた経験を通して、現在の日本にヒーローがなぜ必要であるかを話し続けた。子どもの時に仮面ライダーを見ていた大人たちに、藤岡さんの心が伝わった。

そして午後の部であるヒーローフェスタが始まった。九州から集まった6つのヒーローが順番にショーを繰り広げた。子どもたちも続々と集まってきて、会場にヒーローを応援する声が多くなっていく。最後はグランパワーヒーロクニが登場。すべてのヒーローが集結したショーに会場の盛り上がりは最高潮に達した。ショーが終わり、ロビーでは子どもたちがヒーローと一緒に写真を撮り、ふれあいを重ねた。間違いなく子どもたちには思い出に残ったフェスタだった。それはイベントが大成功したことと同じ意味だろう。

水の戦士 ブルーセイバー

